

第1章 「新入生調査」の結果

第1章では、新入生387名に対する調査結果について報告する。

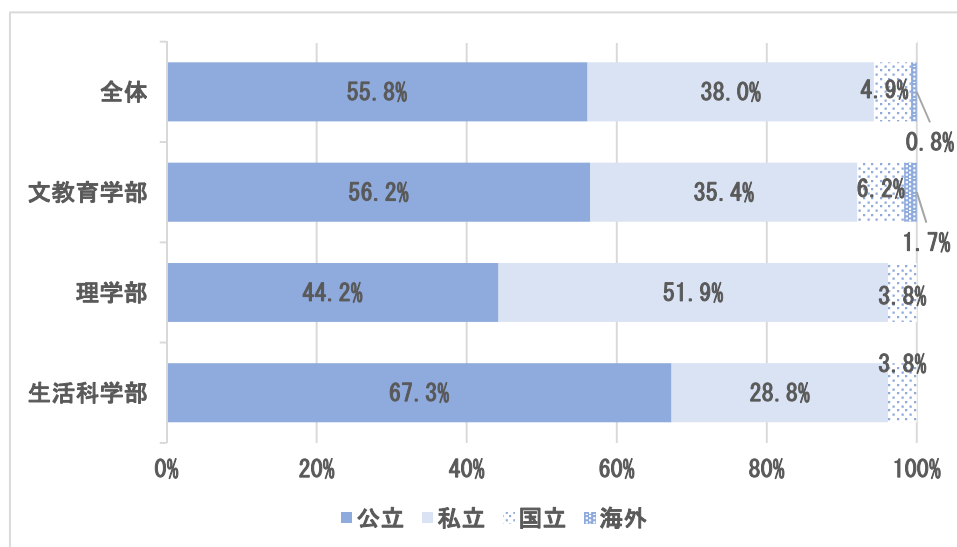
(1) 出身高校

はじめに出身高校について①設置者、②種類、③学科を示す。図表では新入生全体と学部別の内訳を示した。

① 設置者

図表 1-1 に出身高校の設置者についての結果を示す。出身高校の設置者について「国立」「公立」「私立」「海外」「高等学校卒業程度認定試験（高卒認定）」から選択してもらい回答を得た。

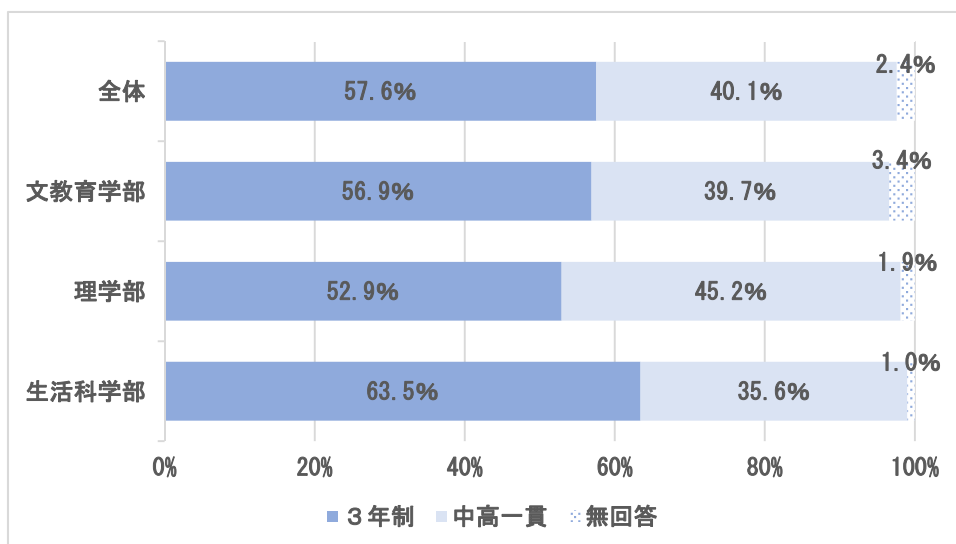
全体では、「公立」55.8%、「私立」38.0%、「国立」4.9%、「海外」0.8%であった。学部別では、生活科学部は「公立」の割合が高く(67.3%)、理学部は「私立」の割合が高い(51.9%)。平成28年度からの結果と比較すると、全体として「公立」の割合が低下する傾向と、理学部において「私立」の割合が上昇する傾向が見られた(お茶の水女子大学 2017a; 2017b)。



図表 1-1 出身高校の設置者

② 種類

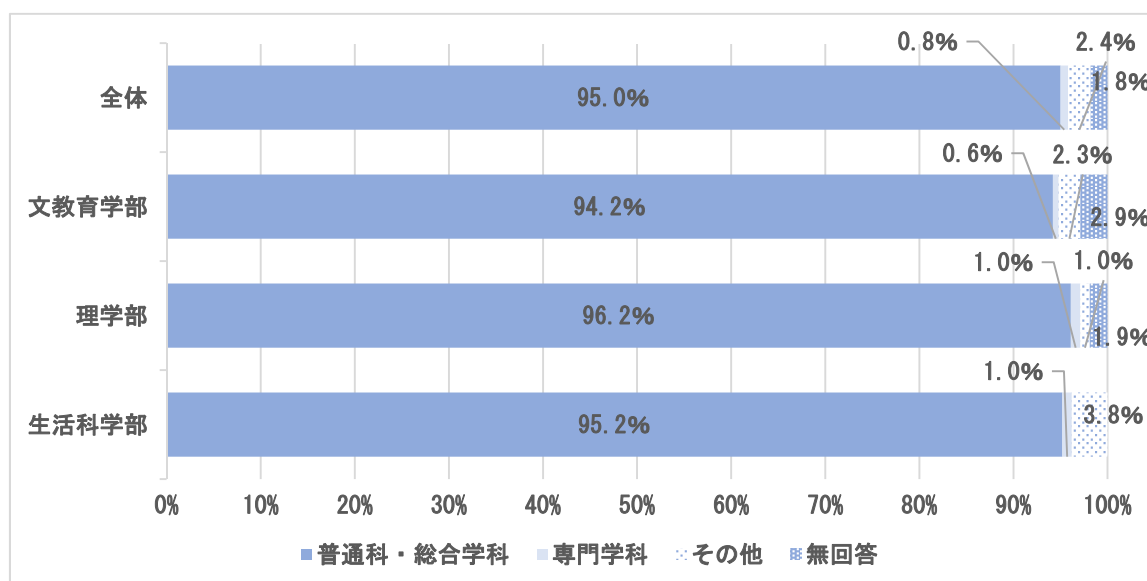
図表 1-2 に出身高校の種類について、「3年制」「中高一貫」の別に示す。全体では、「3年制」が57.6%、「中高一貫」40.1%であり、文教育学部では、平成29年度および平成28年度と比較し、「中高一貫」が増加する傾向がみられた(お茶の水女子大学 2017a; 2017b)。



図表 1-2 出身高校の種類

③ 学科

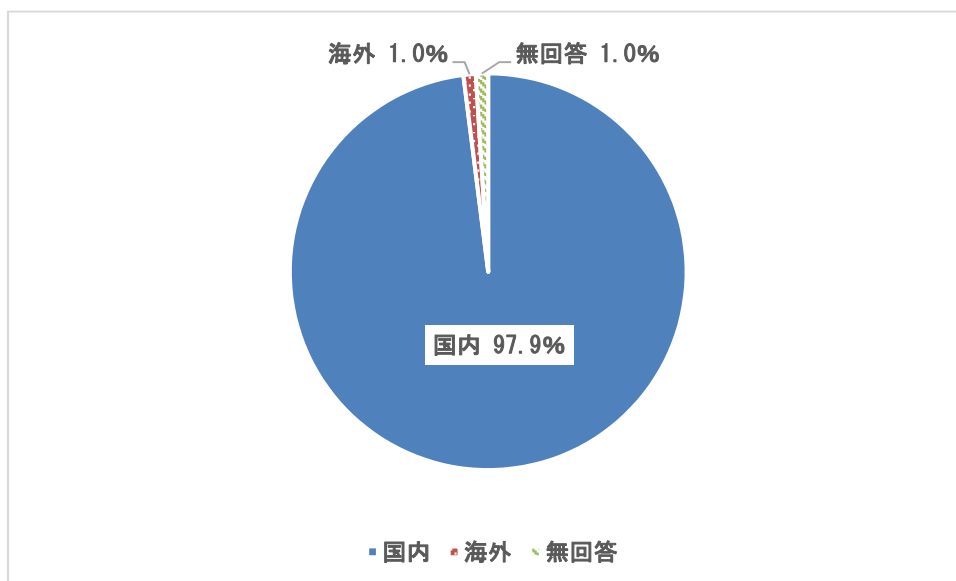
図表 1-3 に出身高校の学科を「普通科（理数科も含む）・総合学科」「専門学科（商業・工業、家庭、農業科など）」「その他」別に示す。全体の95.0%が「普通科・総合学科」であり、学部間の差異はない。この傾向は、平成29年度および平成28年度においても同様であった。



図表 1-3 出身高校の学科

④ 出身高校の所在地

図表 1-4 に出身高校の所在地を「国内」「海外」別に示す。全体の97.9%が「国内」であり、1.0%が海外の高校を卒業している。これは、平成29年度においても同様の傾向であった。



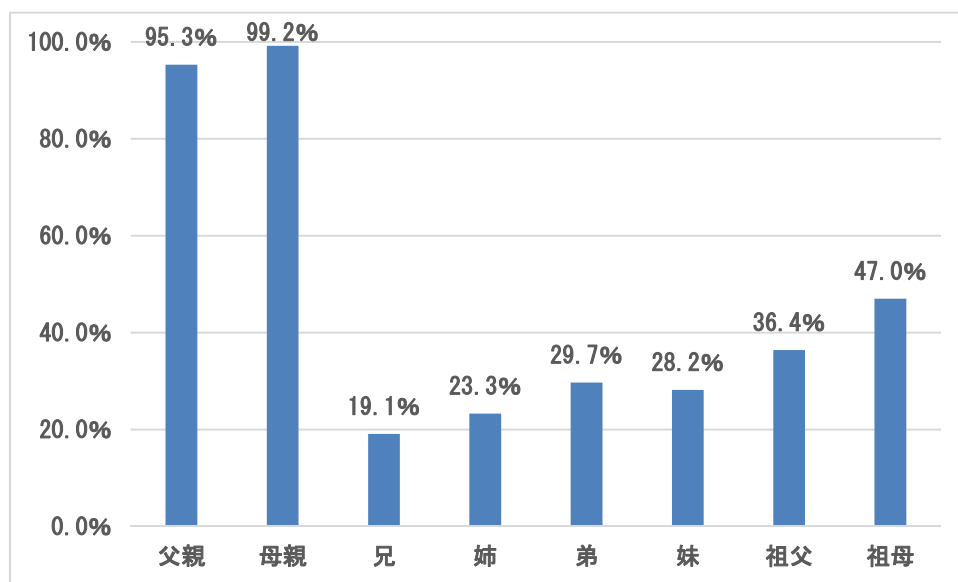
図表 1-4 出身高校の所在地

(2) 家族構成

新入生の家族構成について、①家族構成、②きょうだい数について示す。

① 家族の構成

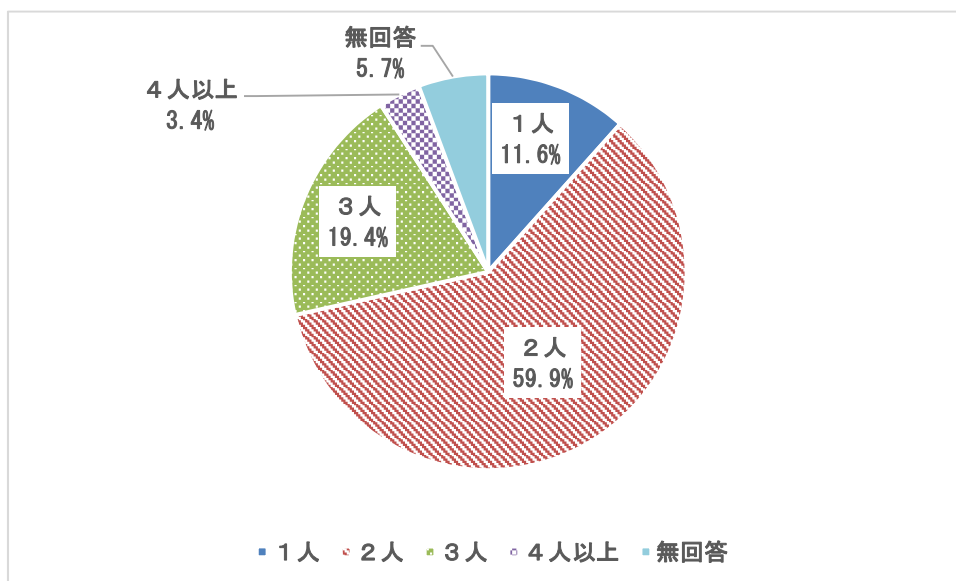
図表 2-1 に新入生の家族構成に関する結果を示す。同居を問わず家族構成について、複数選択可として回答を得た。家族の構成について、平成 29 年度や平成 28 年度からの変化は見られなかった。



図表 2-1 家族構成

② 高等教育機関在籍（予定含む）のきょうだい数

図表 2-2 は自分を含めたきょうだい数を尋ねた結果である。2 人きょうだいの割合が最も高く (59.9%)、3 人きょうだいも 19.4%であった。



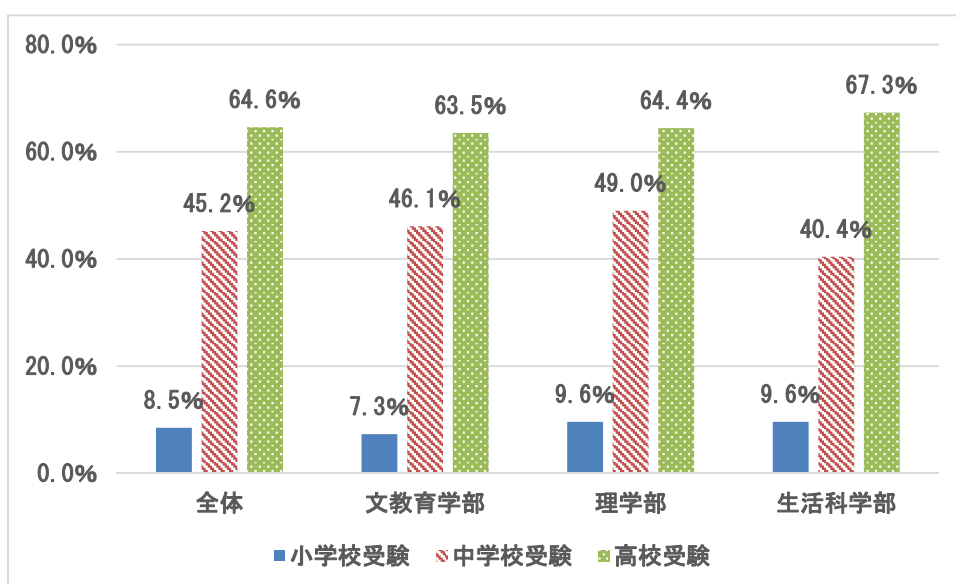
図表 2-2 自分を含めたきょうだい数

(3) これまでの進路選択や学生生活

本節では、新入生のこれまでの進路選択や学生生活について、①これまでの受験経験、②本学の受験を決めた時期、③本学の志望の度合い、④高校卒業から現在までの間に経験したことについて示す。

① これまでの受験経験

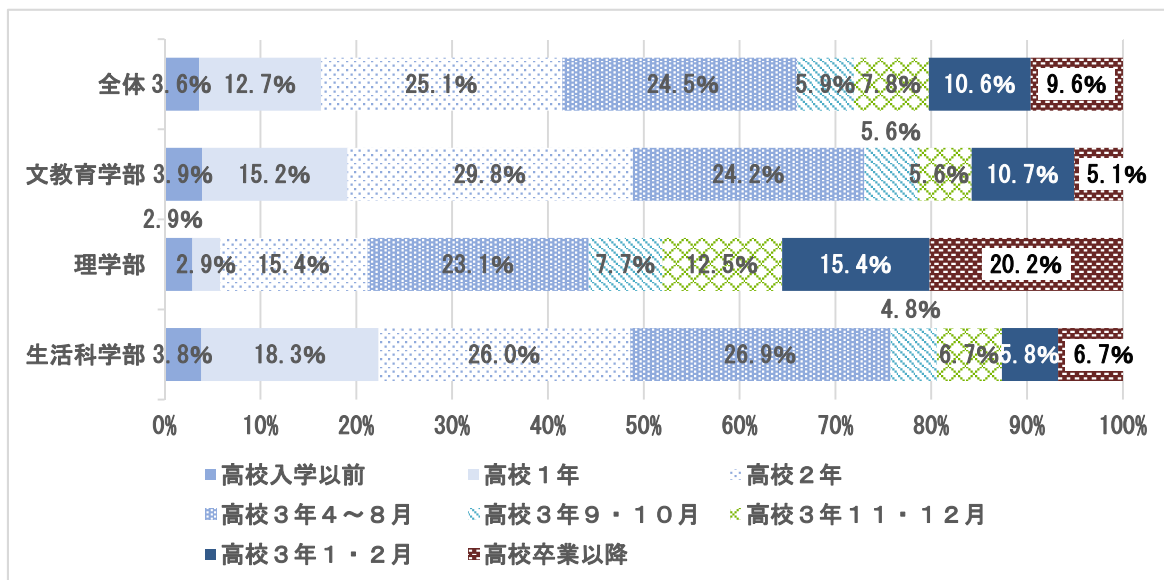
図表 3-1 は、これまでの受験経験について尋ねた結果である。全体の 8.5%が小学校受験を、45.2%が中学受験を、64.6%が高校受験を経験していた。この傾向は平成 29 年度および平成 28 年度においても同様であった(お茶の水女子大学 2017a; 2017b)。「第 1 回 大学生の学習・生活実態調査」における全国の大学生の中学受験経験率 18.8% (ベネッセ教育研究開発センター 2008, p.41)との比較では、本学の新入生の中学受験経験率は高い方に偏る傾向があった。



図表 3-1 これまでの受験の経験

② 本学の受験を決めた時期

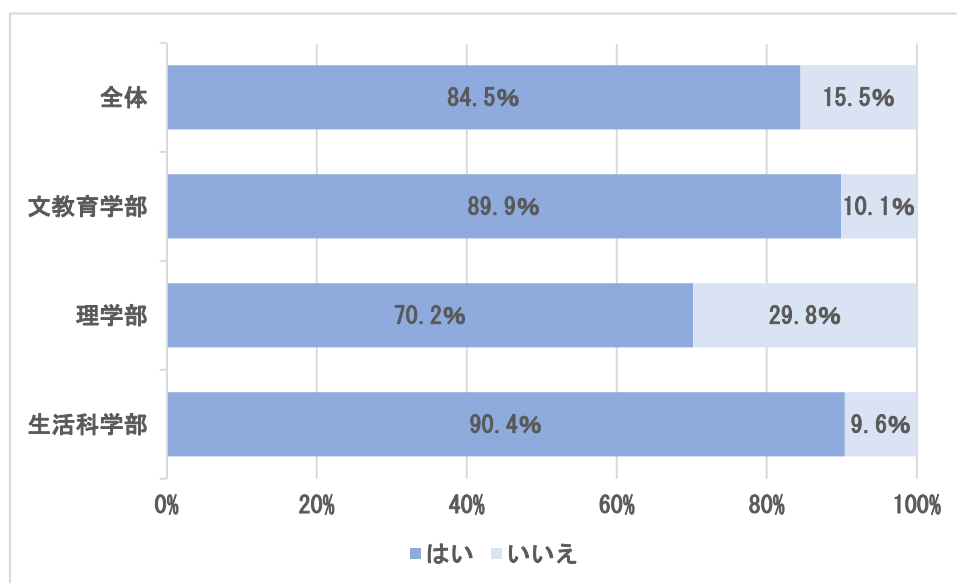
本学の受験を決めた時期について、その時期を尋ねた結果が図表 3-2 である。全体では「高校 2 年」25.1%および「高校 3 年 4～8 月」24.5%が高い。学部別では、理学部は平成 29 年度に比べて高校 1 年の割合が約 10 ポイント低下し、高校卒業以降の割合が約 7 ポイント増加しており(お茶の水女子大学 2017a)、高校 3 年以降に本学の受験を決めた割合が多いという特徴が見られた。



図表 3-2 本学の受験を決めた時期

③ 本学の志望の度合い

図表 3-3 に、受験時に本学が第一志望であったか否かについて尋ねた結果を示す。全体でみると 84.5%の新入生が本学を第一志望としており依然高いが、平成 29 年度からは約 2 ポイント、平成 28 年度からは約 6 ポイント低下している(お茶の水女子大学 2017a; 2017b)。学部別では、文教育学部、生活科学部は 9 割程度の新生が本学を第一志望と回答しているのに対して、理学部の第一志望の割合は 70.2%で、平成 29 から 7.2%ポイント、平成 28 年度からは 8.4 ポイント低下した。

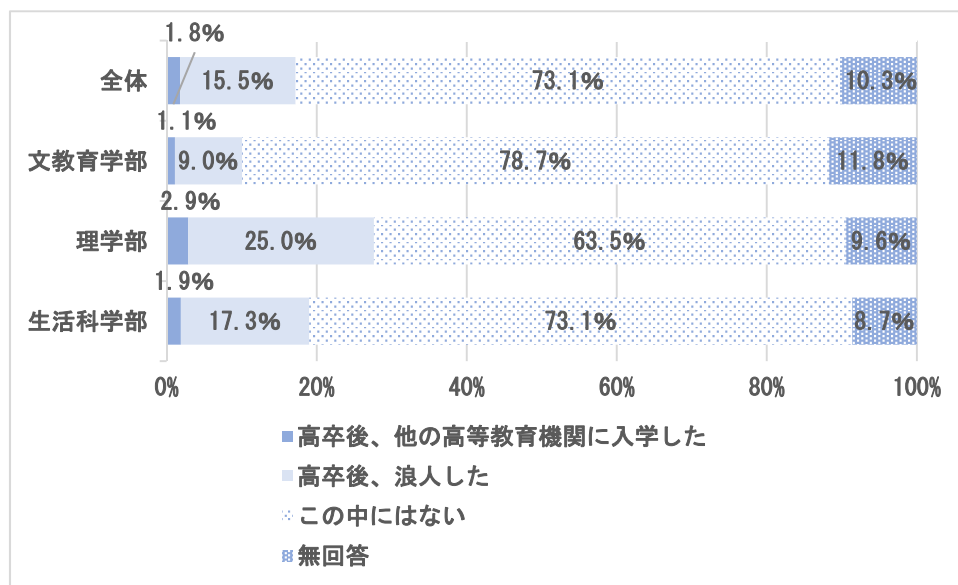


図表 3-3 本学の第一志望の度合い

④ 高校卒業から現在までの間に経験したこと

高校卒業から現在までに経験したことについて、「大学生の学習・生活実態調査」を参考に、複数回答可として尋ねた結果が図表 3-4 である。

「浪人」は全体で 15.5%であり、「この中にはない」が全体の 73.1%であった。浪人の割合は平成 29 年度と大きな違いはない。学部別では浪人の割合が異なり、文教育学部が 9.0%と少なく、生活科学部は 17.3%、理学部は 25.0%であるが、このような学部ごとの傾向は平成 29 年度・平成 28 年度も同様である。今年度の新入生においても昨年度と同様に、高校卒業から調査時点までの間に海外留学をしたものはいなかった。



図表 3-4 高校卒業から現在までの間に経験したこと

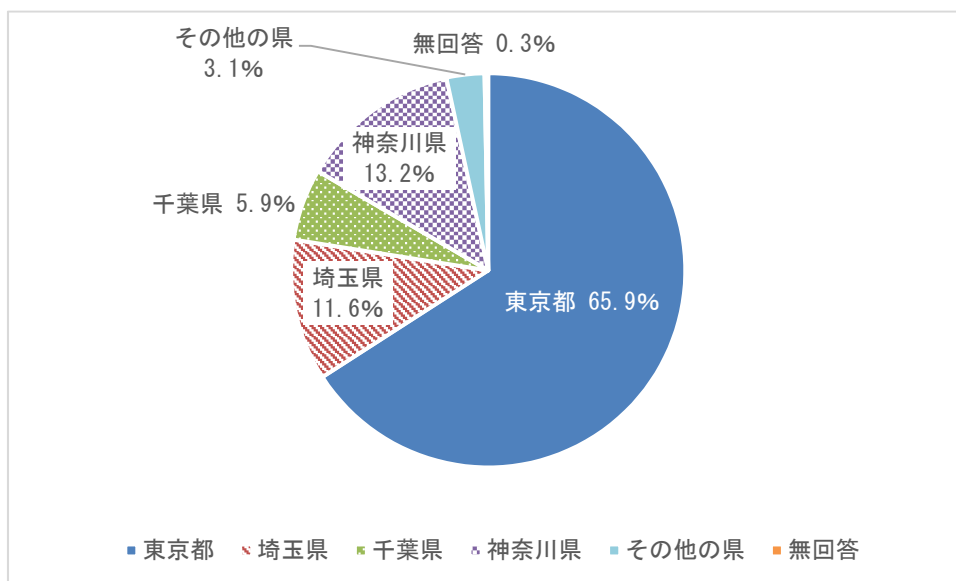
(4) 大学入学後の生活の予定

本節では、新入生の大学入学後の生活の予定についての調査結果を示す。

調査項目は、①大学入学後に居住予定の都道府県、②大学入学後の住居の予定、③1 か月の家賃の予算、④1 か月あたりの仕送り予定金額、⑤大学に入学後、特にこの 1 年で頑張ろうと思う活動、⑥アルバイト活動の予定、⑦授業料の負担予定、⑧大学生活での不安・心配事、⑨本学の学生支援活動への期待についてである。

① 大学入学後に居住予定の都道府県

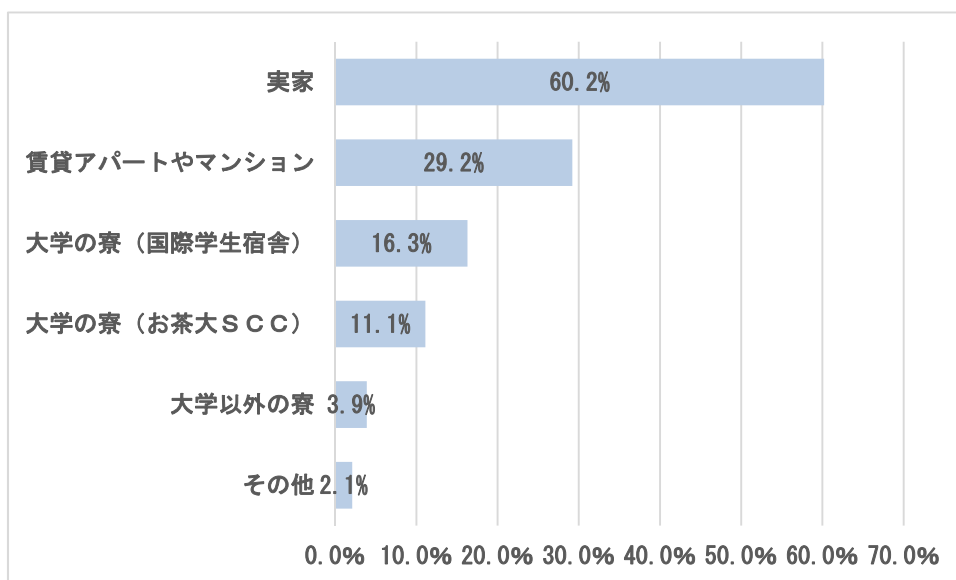
図表 4-1 に大学入学後に居住予定の都道府県について示す。全体では、東京都が 65.9%と最も高く、神奈川県、埼玉県、千葉県と続く。昨年度は埼玉県が神奈川県を上回っていたが、例年と同様の傾向である



図表 4-1 大学入学後に居住予定の都道府県

② 大学入学後の住居の予定

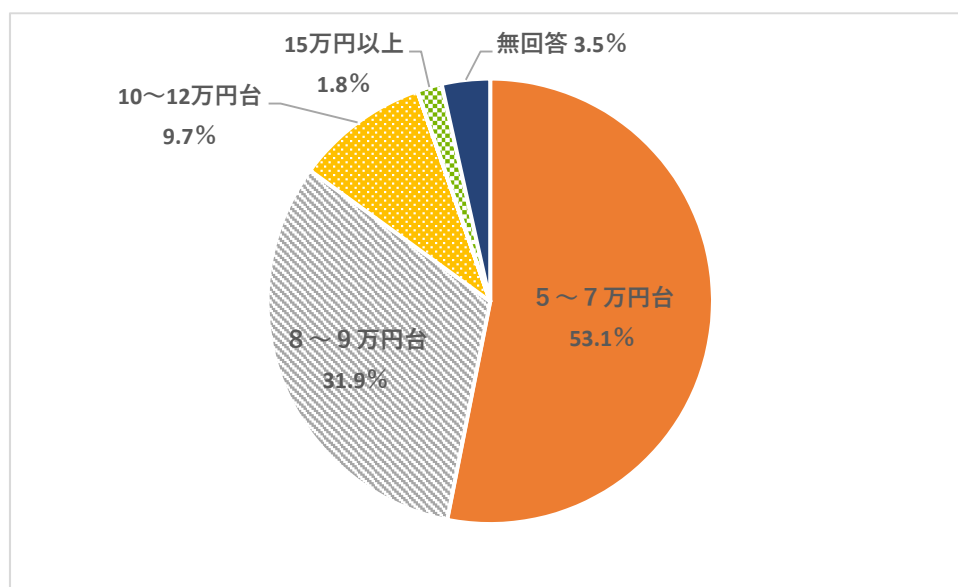
図表 4-2 は、大学入学後に予定している住居について、複数回答可として尋ねた結果である。全体では「実家」が 60.2% を占め、次いで「賃貸アパートやマンション」29.2%、「国際学生宿舎」16.3%、「お茶大 SCC」11.1% といった学生寮が続く。実家と回答した人の割合は、平成 29 年度 54.2% であり、今年度は実家の割合がやや上昇する傾向が見られた。



図表 4-2 大学入学後に予定している住居

③ 1か月の家賃（管理費込み）の予算

図表 4-3 は、1 か月の家賃（管理費込み）の予算（千円未満は四捨五入）について、「賃貸アパートやマンション」に居住予定の者に尋ねた結果である¹。「5～7万円」が53.1%と最も多く、次いで「8～9万円」31.9%である。両者を合わせると8割超の学生が1か月の家賃として5～9万円を予定していることがわかる。平成29年度と比較すると「8～9万円」の割合が約4ポイント上昇、「10～12万円」の割合も約4ポイント上昇する傾向が見られた(お茶の水女子大学2017a)。



図表 4-3 1か月の家賃（管理費込み）の予算

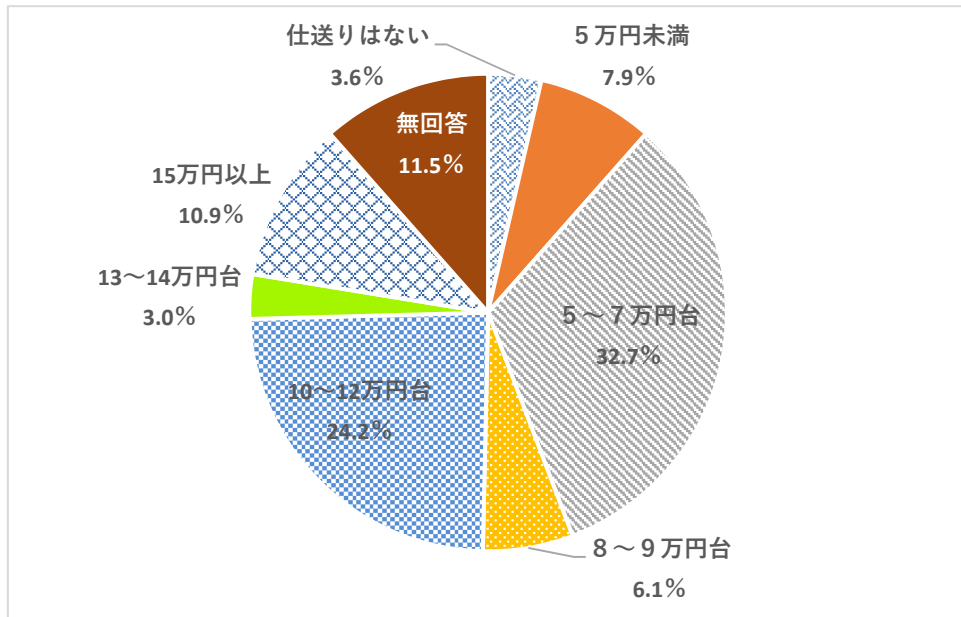
④ 1か月あたりの仕送り予定金額

図表 4-4 は、1か月あたりの仕送り予定額（万円未満は四捨五入）について、「実家」以外に居住予定の者に尋ねた結果である²。「5～7万円台」が32.7%と最も多く、次に「10～12万円」24.2%となっており、例年と同様である。しかし、各カテゴリーの変化を詳細に見ると、「仕送りがない」新生入生は、平成28年度は9.9%、平成29年度は8.7%、平成30年度3.6%と減少する傾向が見られ、10万円以上の仕送りがある割合は、平成28年度31.1%、平成29年度34.3%、平成30年度38.1%と上昇する傾向が確認できた(お茶の水女子大学2017a; 2017b)。

なお「第53回 学生生活実態調査の概要報告」（全国大学生生活協同組合連合会2018）によれば、下宿生のうち、仕送り金額が5～10万円の学生の割合が最も多く(37.2%)増加傾向にある。また、仕送り10万円以上は30.9%、仕送り0の割合は7.1%、5万円未満は15.5%となっている。この調査との比較において、本学学生の仕送り金額は、全国の大学生の平均的な水準よりもやや多いといえる。

¹ 本分析の対象者数は112名である。

² 本分析の対象者数は165名である。

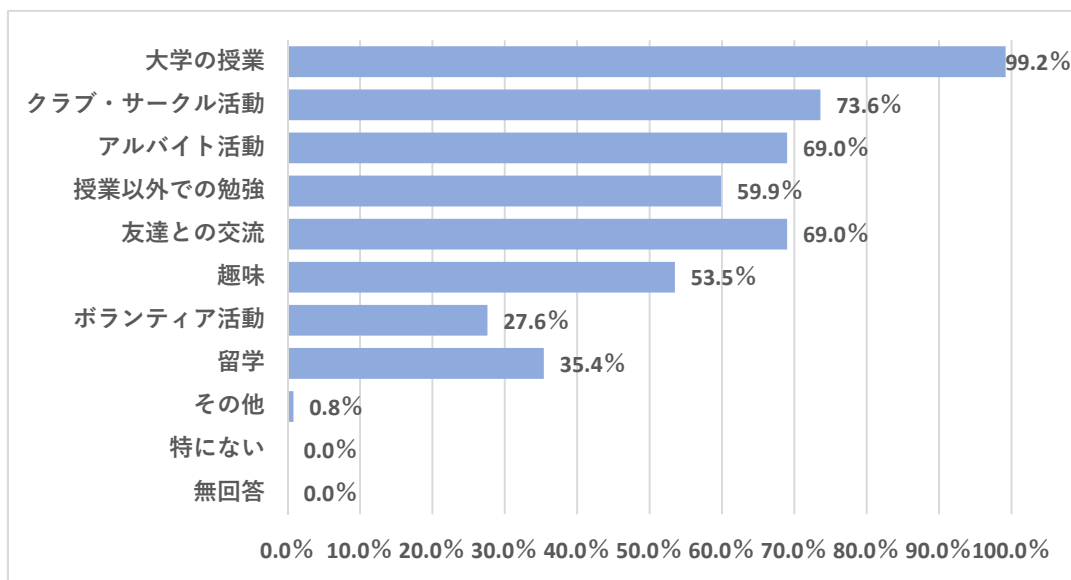


図表 4-4 1 か月あたりの仕送り予定額

⑤ 大学に入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動

図表 4-5 に、入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動について、複数回答可として尋ねた結果を示す。「大学の授業」が 99.2%と例年通り最も高い。続いて、「クラブ・サークル活動」73.6%、「友達との交流」「アルバイト活動」が 69.0%と全体の7割程度になっている。

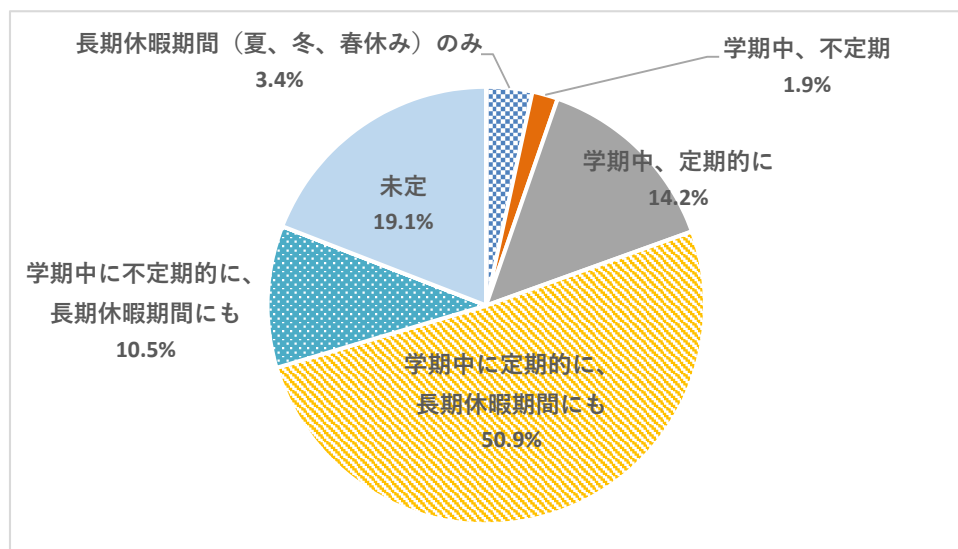
一方、平成 29 年度の調査から加えた「留学」は、平成 29 年度が 25.2%、平成 30 年度は 35.4%と増加している。また、相対的に割合は小さいもののボランティア活動をあげる学生も増加する傾向が見られた(お茶の水女子大学 2017a)。



図表 4-5 大学に入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動

⑥ アルバイト活動の予定

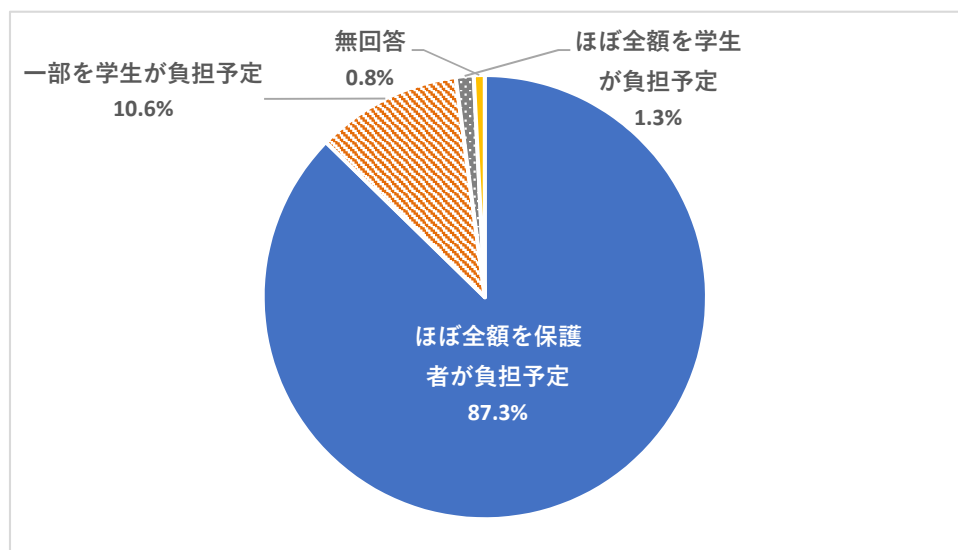
図表 4-6 は、入学後にアルバイト活動を予定している者に対して、具体的な活動時期や仕方を尋ねた結果である³。最も多いのは「学期中に定期的に、長期休暇期間にも」50.9%であり、「学期中に定期的に」14.2%と合わせると 65.1%になった。この傾向は平成 29 年度・平成 28 年度も同様であった。



図表 4-6 アルバイト活動をする予定の時期や頻度

⑦ 授業料の負担予定

図表 4-7 は、授業料の負担予定について尋ねた結果である。「ほぼ全額を保護者が負担予定」が 87.3%と高く、平成 29 年度・平成 28 年度に比べて約 3 ポイント増加した(お茶の水女子大学 2017a; 2017b)。「一部を学生が負担（奨学金、アルバイトなどを含む）」は 10.6%、「ほぼ全額を学生が負担」する新入生は 1.3%であった。



図表 4-7 授業料の負担予定

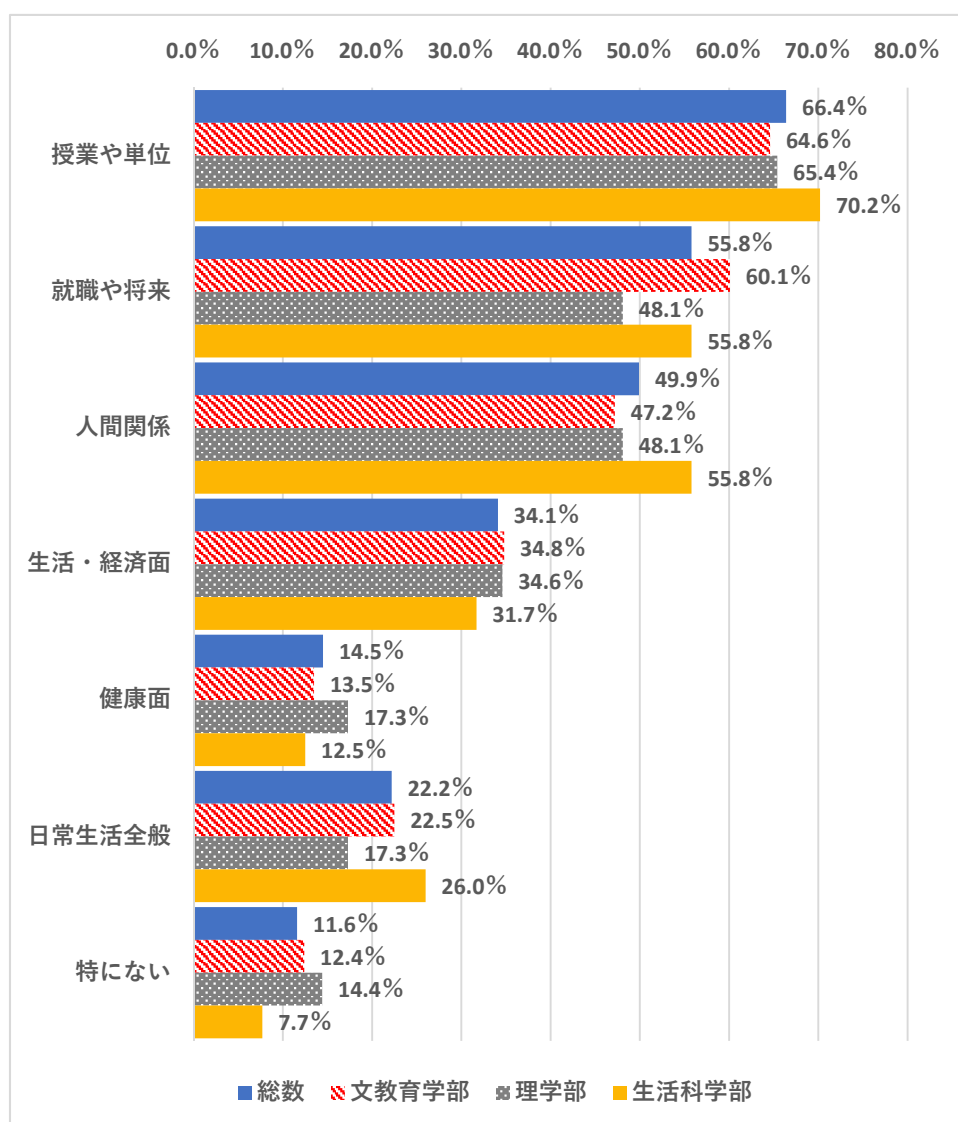
³ 本分析の対象者数は 267 名である。

⑧ 大学生活での不安・心配事

図表 4-8 は、全国大学生生活協同組合連合会が実施している「保護者に聞く新入生調査」の調査項目を参考に、大学生活が始まって心配なことについて複数回答可として尋ねた結果である。

最も高い割合を示したのは「授業や単位」(66.4%)で、「就職や将来」(55.8%)、「人間関係」49.9%が続く。これら上位3項目の割合は例年とほぼ同様である。学部別では、「授業や単位」「人間関係」について生活科学部の割合がやや高く、文教育学部は「就職や将来」についての回答が6割を超え、他学部より高い傾向が見られた。

一方、「特にない」は全体の11.6%で平成29年度より5ポイント高かったが、学部別では生活科学部で7.7%とやや低かった。



図表 4-8 大学生活が始まって心配なこと

さらに図表 4-9 から図表 4-15 に大学入学後の不安・心配事に対する今の気持ちについて4件法で尋ねた結果を示す。図 4-9 「友達ができるか」について心配事として「あてはまる」「ある程度あてはまる」と回答した新入生は、全体の7割近くであった。同様に、「大学になじめるか」を不安に思う割合は、全体で6割超となった(図表 4-10)。

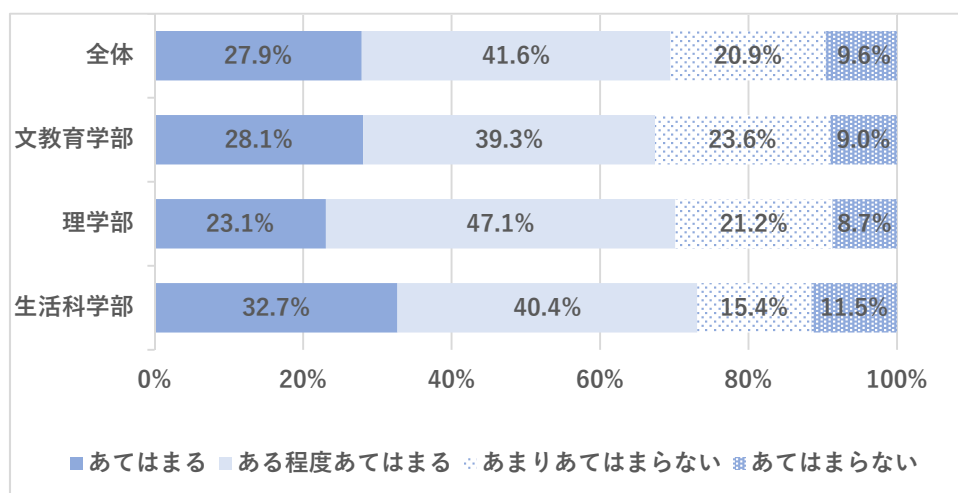
図表 4-11 「金銭面で負担がかからないか」は、全体で「あてはまる」20.2%、「ある程度あては

まる」37.5%となっており、この割合は理学部で低い傾向が見られた。

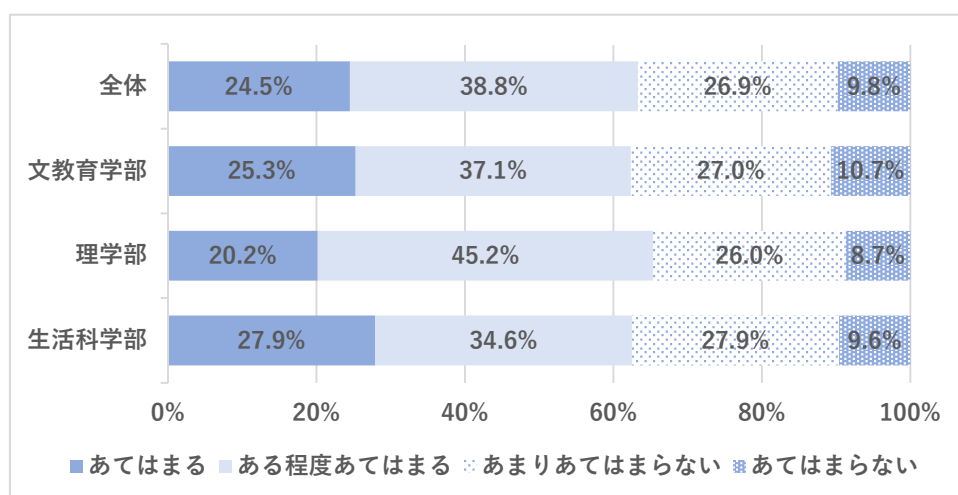
図表 4-12「授業についていけるか」については、「あてはまる」32.0%、「ある程度あてはまる」43.7%で合計75.5%と、調査したすべての項目の中で最も高かった。図表 4-13「進級や卒業ができるか」について「あてはまる」「あてはまらない」と回答した割合は49.3%である。

図表 4-14「将来の目標が見つかるか」は、22.7%、29.7%と全体の約半数であり、「卒業後ちゃんと就職できるか」は30.5%、37.5%と約7割であった。

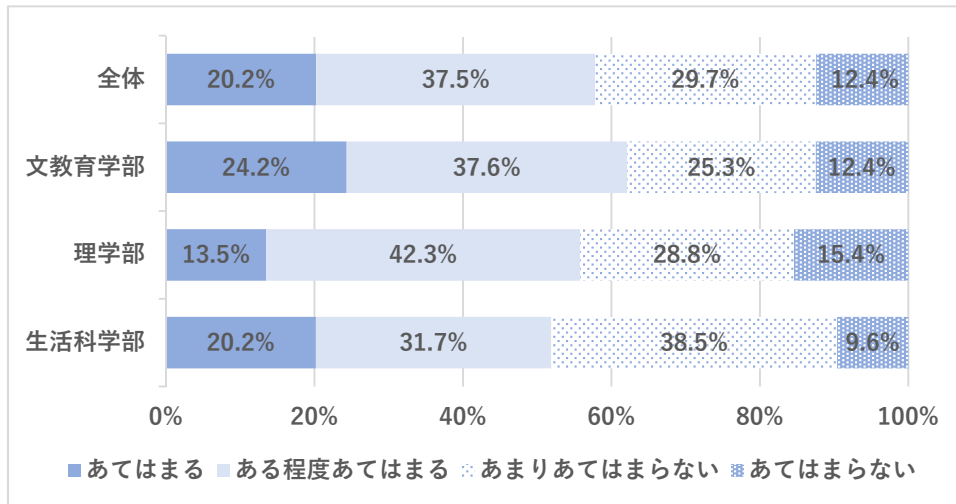
いずれの項目についても、新入生の半数以上は不安を抱えており、特に、友達、授業、就職に対する不安がより大きい傾向が見て取れる。また、学部別には、文教育学部はいずれの項目においても「あてはまる」に回答する割合が高い傾向があった。生活科学部は、友達や大学へなじめるかについて「あてはまる」と回答する割合が高かった。



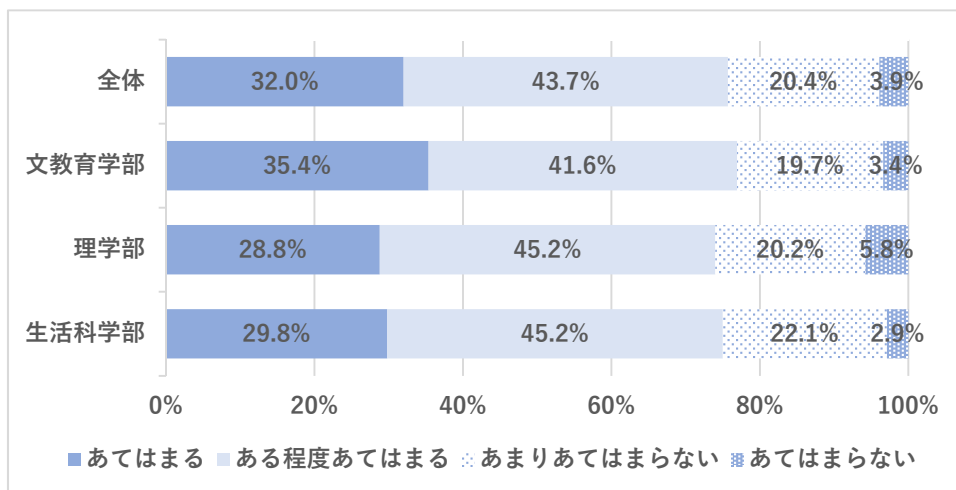
図表 4-9 友達ができるか



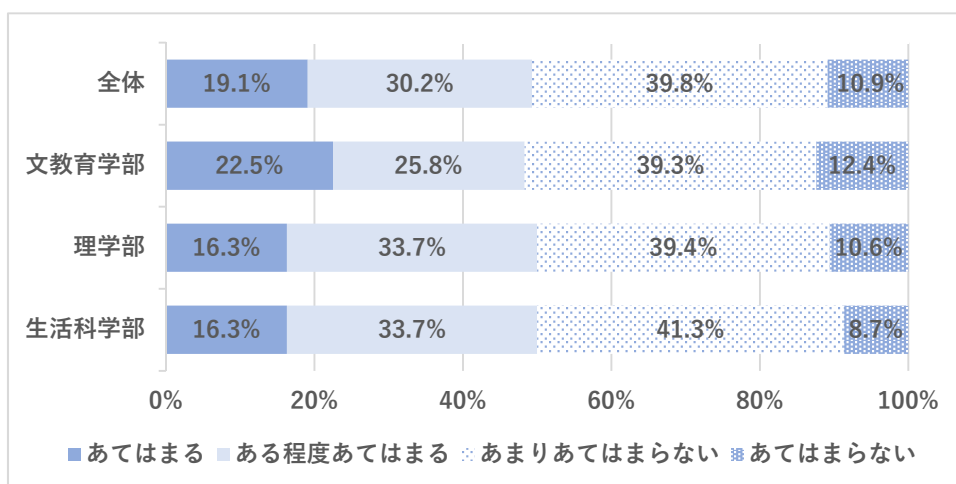
図表 4-10 大学になじめるか



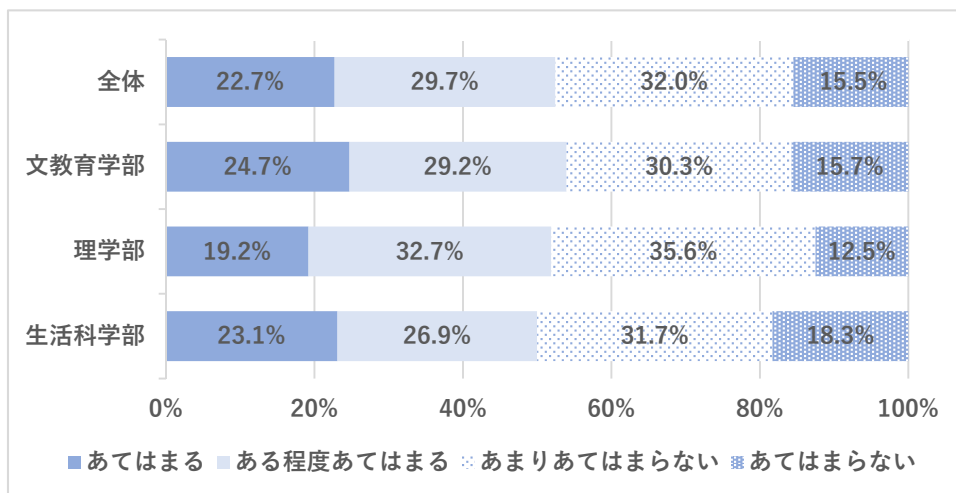
図表 4-11 金銭面で負担がかからないか



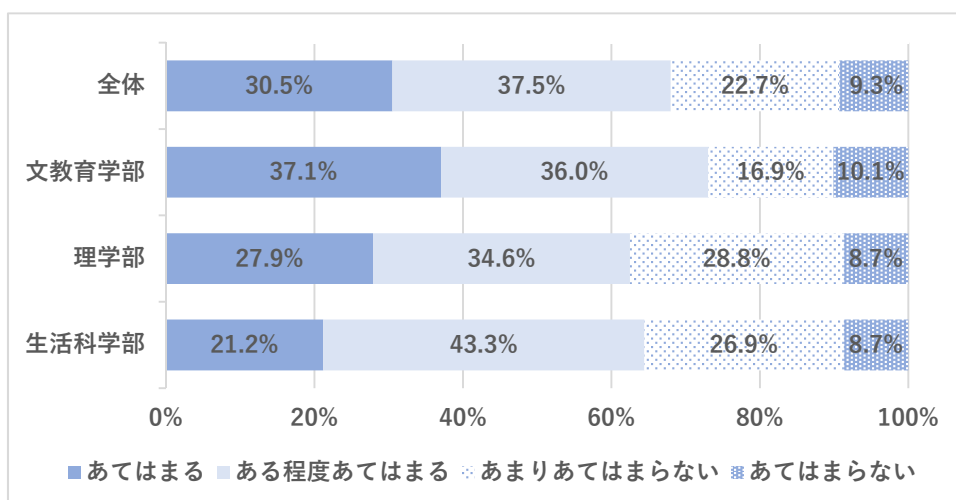
図表 4-12 授業についていけるか



図表 4-13 進級や卒業ができるか



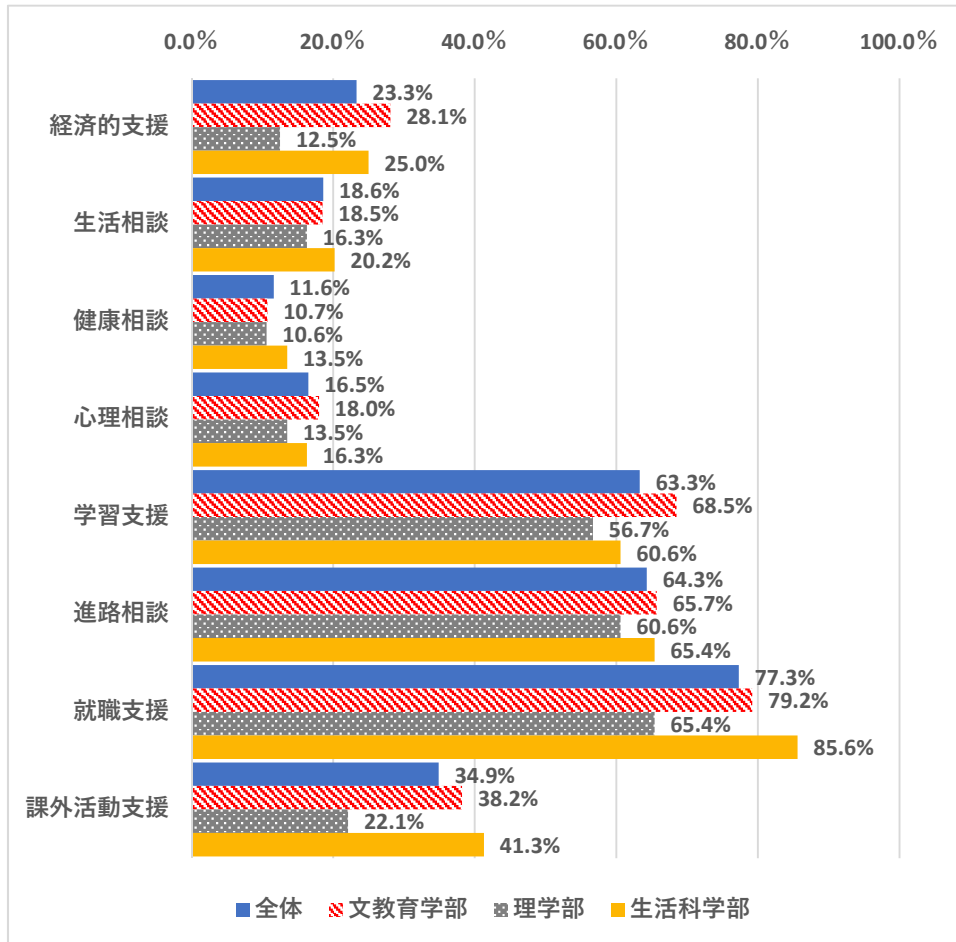
図表 4-14 将来の目標が見つかるか



図表 4-15 卒業後ちゃんと就職できるか

⑨ 本学の学生支援活動への期待

図表 4-16 は、本学の学生支援活動に期待することについて、複数回答可として尋ねた結果である。全体では「就職支援」が 77.3%と最も高く、次いで「進路相談」64.3%、「学習支援」63.3%となっている。この傾向は平成 29 年度も同様である。学部別では、いずれの活動においても理学部の割合が低く、特に他学部との差異が大きいのは、「就職支援」、「課外活動支援」、および「経済的支援」であった。



図表 4-16 本学の学生支援活動への期待

(5) 将来の進路

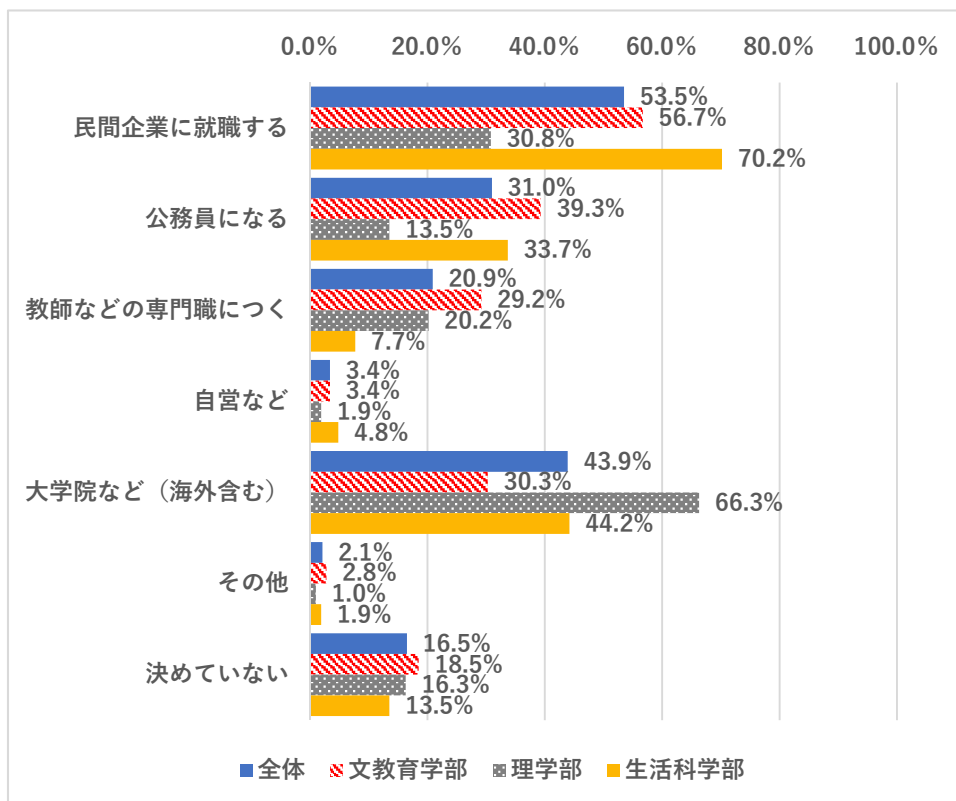
本節では、新入生の将来の進路について①大学卒業後の進路希望、②大学卒業後のキャリアについての考え、③就職や将来に関する親の関与について示す。

① 大学卒業後の進路希望

図表 5-1 は、大学卒業後の進路希望について、複数回答可として尋ねたものである。

全体で見ると、「民間企業」が最も高く 53.5%、「大学院など（海外含む）」がそれに続いて 43.9%であった。ただし「民間企業」は生活科学部が 70.2%と高く、「大学院など（海外含む）」は理学部が 66.3%と高いといった学部間の違いがあり、これらの傾向は、平成 29 年度でも同様であった。

「公務員」を志望する新入生は全体の 31.0%、「教師など専門職」を志望する新入生は全体の 20.9%である。公務員を志望する新入生は、生活科学部、文教育学部に多く、教師など専門職は文教育学部が他学部に比べて多かった。そして、進路を決めていない学生も 16.5%ほどおり、その割合は平成 29 年度、平成 28 年度よりも 4 ポイント程度高かった。



図表 5-1 大学卒業後の進路希望

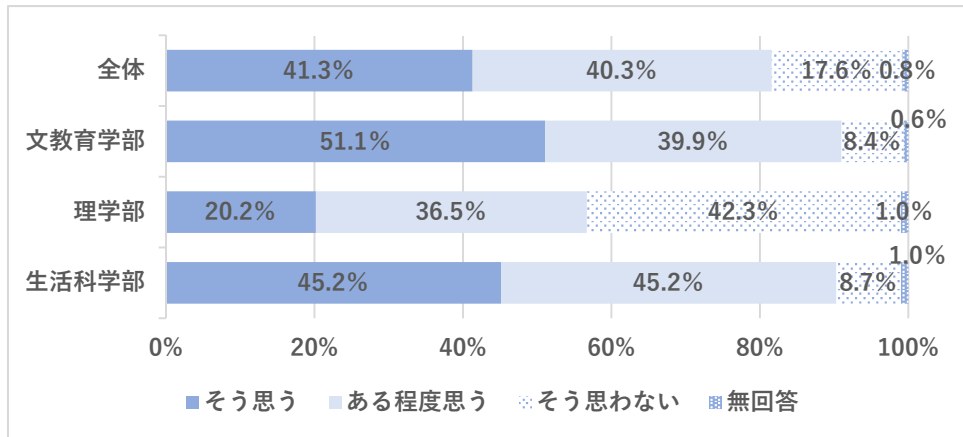
② 大学卒業後のキャリアについての考え

全国大学生調査コンソーシアム/東京大学 大学経営・政策研究センターが 2007 年に実施した「全国大学生調査」を参考に、「大学卒業後のキャリアについての考え」に関する 9 項目について 3 件法で尋ねた結果を図表 5-2 から図表 5-10 に示す。

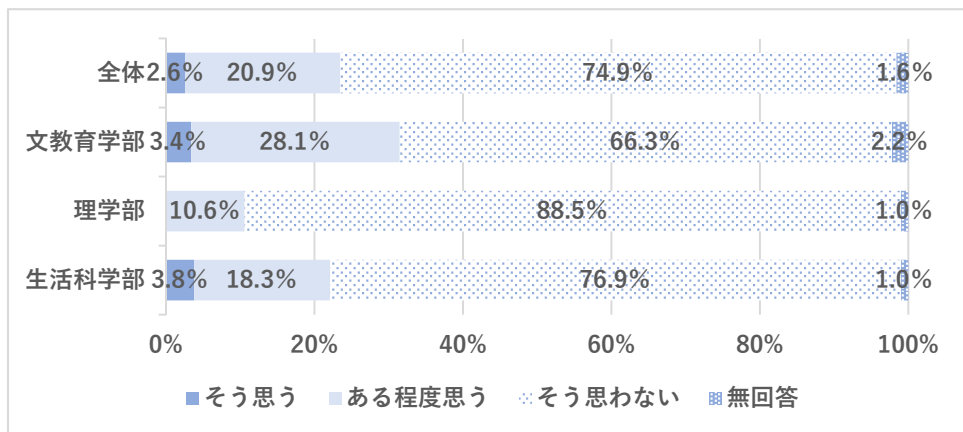
図表 5-2 から図表 5-6 は、「卒業後の進路」について尋ねた結果である。「すぐに就職して正社員・正規の職員になる」について、全体で「そう思う」「ある程度思う」と回答した人（該当率）は 81.6%で、「すぐに就職するが正社員・正規の職員にこだわらない」は 23.5%である。この結果は、これまでの新入生と同様の傾向であり、新入生が大学卒業後すぐに正規雇用を志向し

ていることがうかがえる。

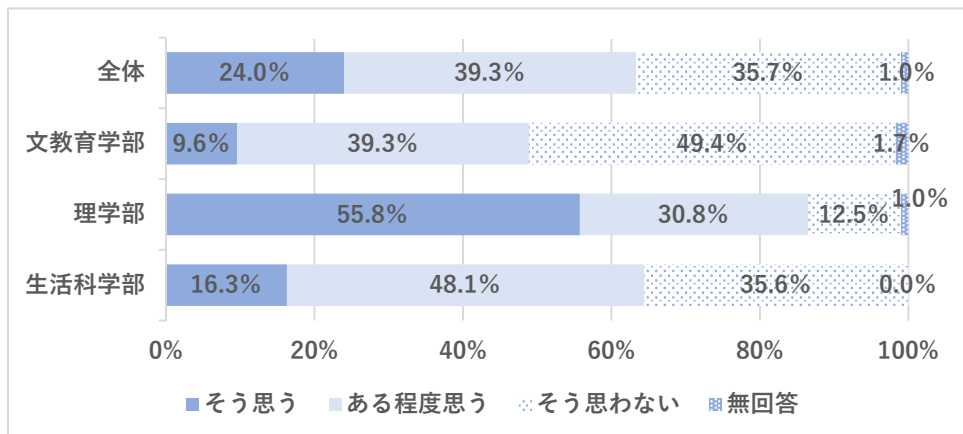
一方で、卒業直後の進学についても全体で63.3%が検討しており、その割合は理学部で特に高い(86.6%)。ただし、就職後の大学院進学は2割弱にとどまった。また、「資格試験・公務員試験などに合格するまで就職しない」と考える新入生の割合は2割を超え、「卒業後すぐに就職をしなければいけない」と考える人の割合も3割を超え、特に理学部が高かった。



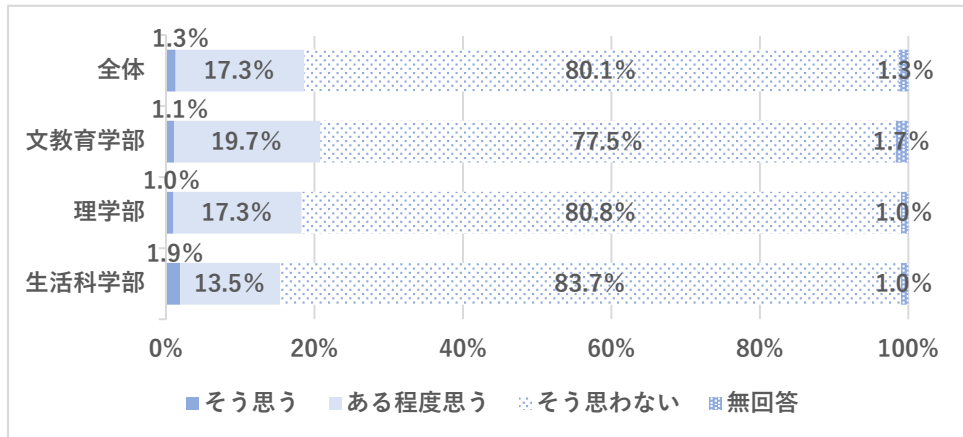
図表 5-2 すぐに就職して正社員・正規の職員になる



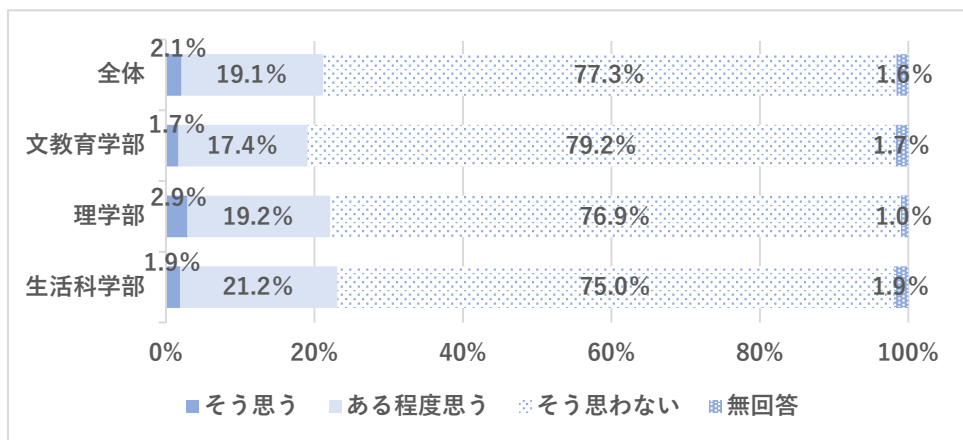
図表 5-3 すぐに就職するが正社員・正規の職員にこだわらない



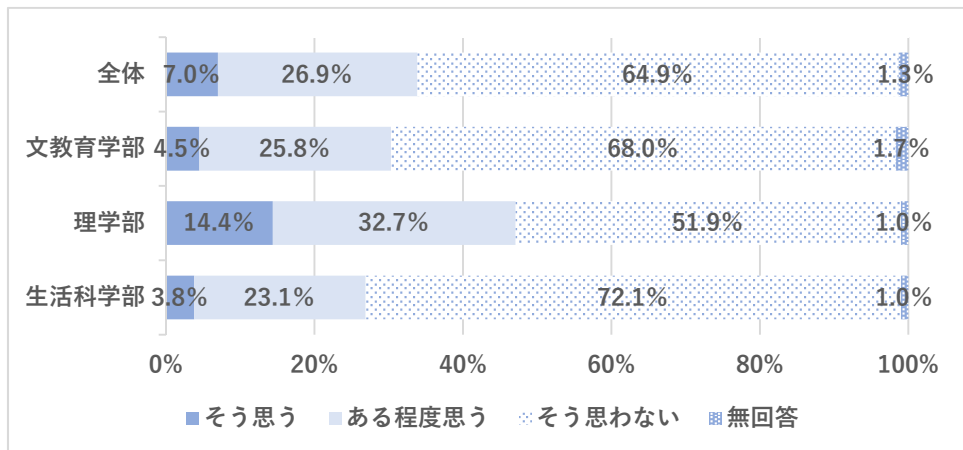
図表 5-4 すぐに大学院などに進学する



図表 5-5 就職してから大学院への進学を考える

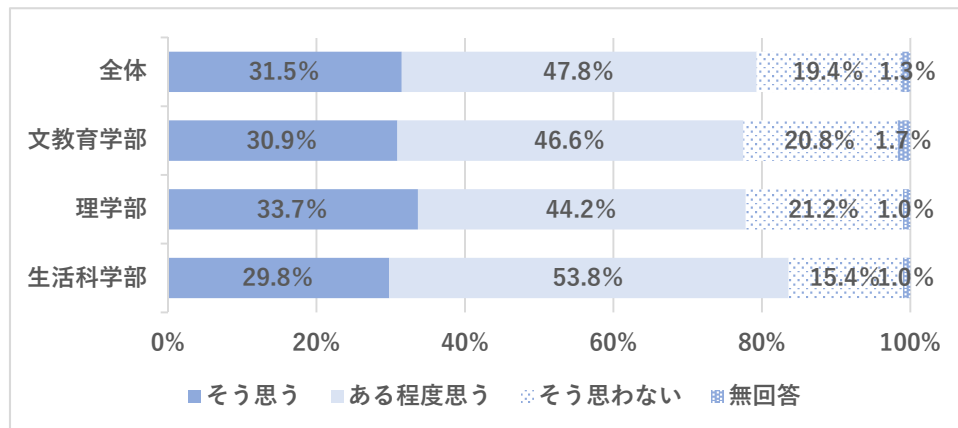


図表 5-6 資格試験・公務員試験などに合格するまで就職しない

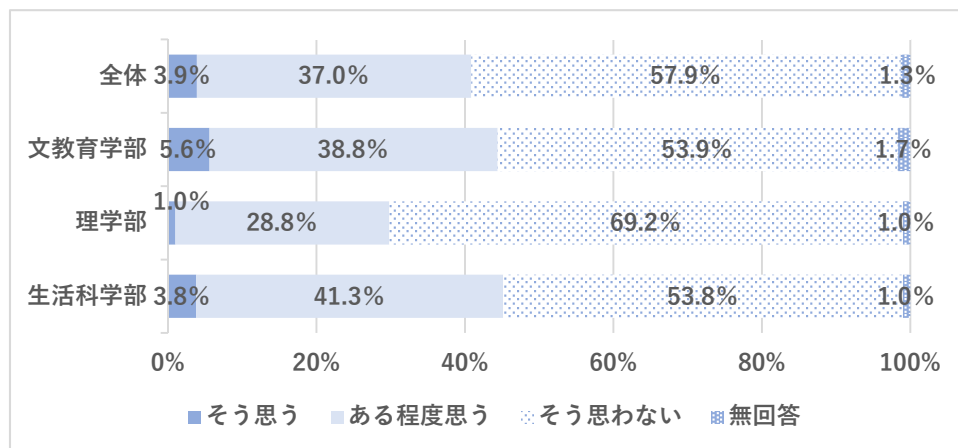


図表 5-7 卒業後すぐには就職しなくてもよい

図表 5-8 と図表 5-9 は、「就職後の勤務や退職」について尋ねた結果である。「最初の就職先にできるだけ長く勤める」と考える人は全体の 79.3%と、例年通り初職の継続意識は高かったが、平成 29 年度からは 7 ポイント低下した(お茶の水女子大学 2017a)。そして、転職や独立の意識を持つ人は全体の約 4 割にのぼった。

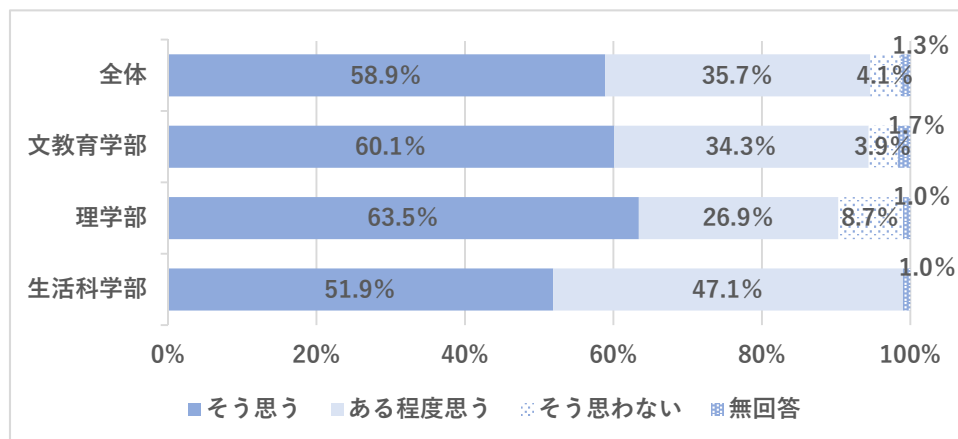


図表 5-8 最初の就職先にできる限り長く勤める



図表 5-9 何年かして転職や独立をする

図表 5-10 「結婚・出産しても仕事を続ける」の該当率は全体で 94.6%と非常に高く、この傾向は平成 29 年度と同様であった。



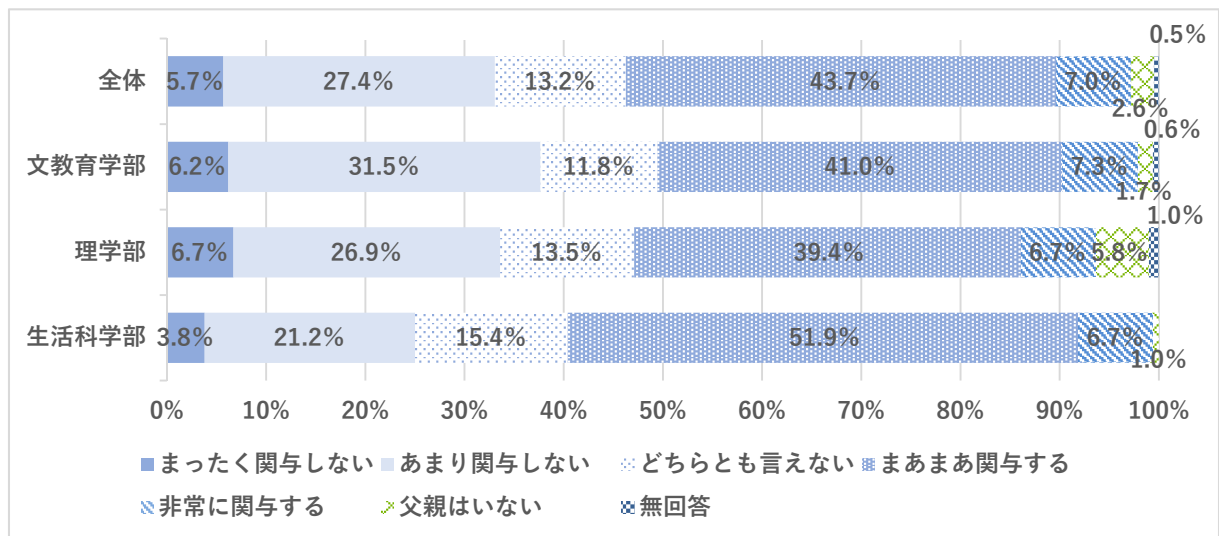
図表 5-10 結婚・出産後も仕事を続ける

③ 就職や将来に関する親の関与

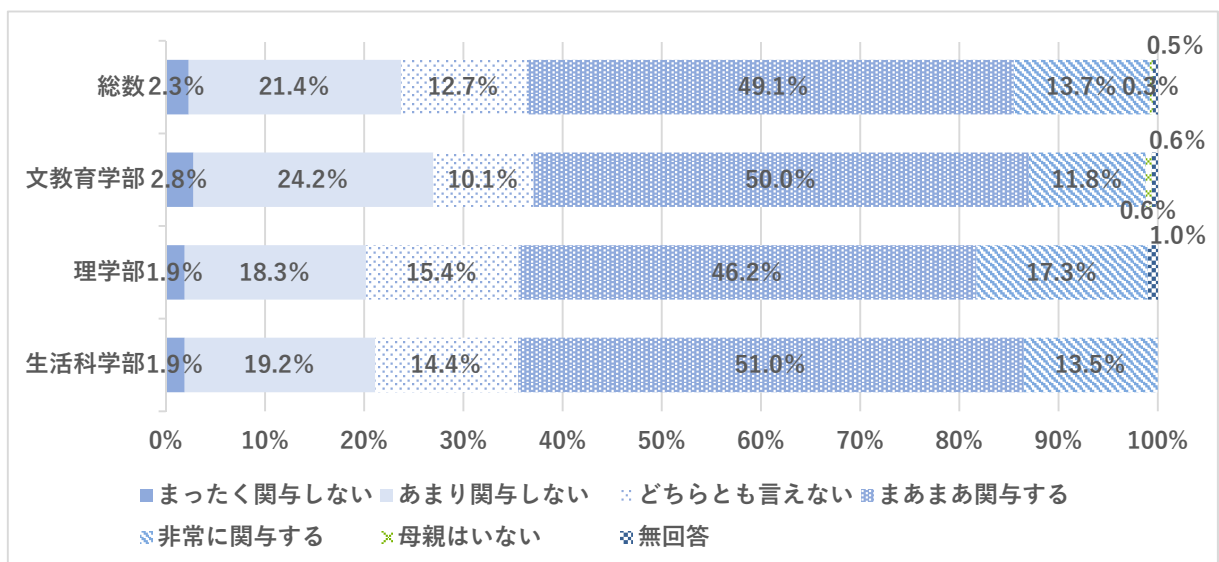
就職や将来に関する親の関与について「あなたのご両親は、あなたの就職や将来のことに、どれくらい関与しますか。」として5件法で尋ねた。図表 5-11 に父親の関与についての結果を、図表 5-12 に母親の関与についての結果を示す。

はじめに父親の関与について、平成 30 年度新入生は、就職や将来のことに、全体の 50.7% に父親の関与がある（「非常に関与する」＋「まあまあ関与する」）と回答している。同様に母親に関しては、全体の 62.8% に母親の関与があると回答した。この傾向は平成 29 年度も同様であった。

学部別では、父親の関与は生活科学部で 58.6%(51.9+6.7%)とやや高い傾向があるが、母親の関与について学部間の大きな違いは見られなかった。



図表 5-11 就職や将来のことに関する父親の関与



図表 5-12 就職や将来のことに関する母親の関与